

19. 保健学研究科

- I 保健学研究科の教育目的と特徴 19- 2
- II 「教育の水準」の分析・判定 19- 4
 - 分析項目 I 教育活動の状況 19- 4
 - 分析項目 II 教育成果の状況 19-15
- III 「質の向上度」の分析 19-20

I 保健学研究科の教育目的と特徴

保健学は心身の健康や疾病・障害に関する教育と研究を通して、人類の幸福と社会福祉の向上に寄与する実践的学問である。心身の健康や疾病・障害は個人及び集団を対象として、身体的、精神的、社会的、倫理的側面から総合的に把握する必要がある。これが神戸大学大学院保健学研究科の掲げる総合保健医療（total health care）の基本理念である。

（教育目的）

本研究科では、幅広い教養、豊かな人間性と倫理性を共通基盤として、①総合保健医療を確立するために必要な独創性と創造性を備えた研究者、②豊富な臨床経験とリサーチマインド、統率・管理能力を備えた高度保健医療専門職者、③臨床能力、研究能力、教育能力を備えた大学教員、④コミュニケーション能力や異文化理解能力を備え、国際保健を推進する高度保健医療専門職者を養成することを教育目的としている。

このような教育目的を達成するため、中期目標では、「教育憲章」に掲げた、「人間性」、「創造性」、「国際性」及び「専門性」を身に付けた個性輝く人材を養成するため、国際的に魅力ある教育を学部・大学院において展開する。また、豊富な研究成果を活かして、社会の変化を先導し、個人と国際社会が進むべき道を切り拓く高度な知識・能力を有する、次世代の研究者をはじめとした多様な人材の養成に努め、教育の更なる高みを目指す」ことを定めている。

また、目的に掲げる人材を養成するために、本研究科では5年間の博士課程を一貫したものとして捉え、博士課程前期課程と博士課程後期課程における到達目標は《資料1》のとおりである。

《資料1 博士課程前期課程・後期課程における到達目標》

博士課程前期課程	臨床実践能力、直面する問題を多角的に分析する能力、問題の解決に必要な研究能力を涵養し、チーム医療、チームケア、総合保健医療、国際医療保健の中で活躍できる高度医療専門職者を養成する。本課程の中に家族看護専門看護師課程を設置し、専門領域での認定等に関わる教育を効果的に取り込む。
博士課程後期課程	前期課程において修得した分析能力、問題解決能力、研究能力を更に高度化し、創造的・開発的研究を通して新しい総合保健医療を創造・実践、教育できる独創性、創造性豊かな教育・研究者を養成する。

（組織構成）

これらの教育目的を実現するため、本研究科では《資料2》のような組織構成をとっている。

《資料2 教育研究分野》

専攻	領域	教育研究分野	
保健学専攻	看護学	国際的ならびに科学的な視野に立脚し、創造性豊かな開発能力を持つ看護学研究者、高度な教育能力と研究能力を備えた大学教員、全人的包括医療現場の指導者となる人材を養成する。	看護実践開発学 在宅看護学 家族看護学 母性看護学
	病態解析学	人体の構造と機能をその生理的状态と病的状態の両面から研究し、創薬、ワクチン、診断技術、医療器具・機器の開発研究などが推進できる人材を養成する。	分析医科学 細胞機能・構造科学 病態代謝学 臨床免疫学
	リハビリテーション科学	疾病や外傷からの機能回復、「人間の復権」に関する研究教育を通して、リハビリテーション科学、特に理学療法、作業療法学分野の研究者、臨床現場のリーダーとなる高度医療保健専門職者、大学教員を養成する。	生体構造 運動機能障害学 脳機能・精神障害学 健康情報科学（連携講座）
	地域保健学	地域保健学領域では、人々が暮らすコミュニティ全体の健康づくりを中心課題としている。地域社会を基盤とした医療・保健システムの開発とその実践に関する研究を通して、新しい技術・制度開発とともにグローバルな視点に基づいた政策立案にも寄与できる総合的で高度な専門的知識を持った人材を育成する。	地域保健学 健康科学
	国際保健学	健康格差や感染症等の地球規模課題を解決するために、世界の国や地域を対象に公衆衛生学、感染症学、疫学、看護学、リハビリテーション科学などの複合的な学問領域の研究を行ない、人々の健康や安全に貢献できるグローバルリーダーの育成を目指す。	感染症対策 国際保健協力活動 国際開発

(教育上の特徴)

ICHS (International Course for Health Sciences) の設置

本研究科では、平成20年から3年間、大学院教育改革プログラムとして「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」が採択され、各専門職におけるグローバルエキスパートを養成することを教育目標に International Activity for Health (IAH) コースを設置し、教育活動を行ってきた。このIAHをもとに、平成24年度より全5領域の大学院生を対象に、修学期間を通じて英語のみで単位を修得し、修了することができるコース(International Course for Health Sciences: ICHS)を開講した。専任教員による英語講義に加え、ネイティブ教員による通年の講義、また、夏季には東南アジアを中心とした諸外国からの講師による Summer Educational Program を開講している。平成24年に採択された「大学の世界展開力強化事業」とも連携し、ASEAN 諸国の学生との交流に重点をおいたグローバル教育を実践している。(「分析項目Ⅱ」(1-17頁)及び「Ⅲ 質の向上度の判断」(1-22頁)参照)

[想定する関係者とその期待]

本研究科の教育についての関係者としては、受験生・在学生、修了生並びに地域の保健・医療・福祉関連機関等の雇用者を想定している。受験生・在学生には、保健学に関する深い教養と専門知識とそれを活用した思考力や創造性を身に付けることを、修了生及びその雇用者は、豊かな人間性や幅広い教養を身に付け保健・医療・福祉などの分野の発展にあわせて生涯にわたり学習し成長を続けられる人材を期待していると考え、これに応えるべく教育を実施している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

本研究科では、先に掲げた教育目的を達成するため、保健学専攻を設け、学問分野の観点から基幹3領域(看護学, 病態解析学, リハビリテーション科学)に融合2領域(地域保健学, 国際保健学)を加えた5領域を設置している。

各領域は学問分野の観点から必要に応じて複数の教育研究分野に分かれている《資料2》。

教員の配置状況を《資料3》に、研究指導教員数及び研究指導補助教員数を《資料4》に示す。専任教員一人あたりの学生収容定員は2.5名である。後述のように学生現員数は定員を超過しているが、研究指導教員数は十分確保しており大学院設置基準を大幅に上回っている。また、平成20年度から主指導教員と共同して教育を行う副指導教員制度並びに中間発表会を導入し、複数の教員が学生の学習到達度と研究進捗状況を共有することによって、指導プロセスを明確化し検討できる教育体制を整備している。さらに、専門分野の非常勤講師を国内外より積極的に雇用するとともに、本学医学研究科との連携により医学研究科と保健学研究科の兼任教員を採用することにより、保健学研究科各教員の専門性を発揮して最先端の研究を推進することが可能な教育・研究指導體制としている。

また、英語による全履修科目の修得が行える英語(ICHS, International Course of Health Sciences)コース(平成24年度～)、リハビリテーション科学領域では国立研究開発法人 情報通信研究機構との連携講座(健康情報科学)(平成25年度～)、地域保健学領域や国際保健学領域では企業の寄付講座(平成27年度～)を設置し、本学の専任教員が担当困難な新しい専門領域は、これらのプロジェクトで雇用された特命教員が積極的に教育に参画することで、各教員が専門性を発揮し、最先端の教育を推進することが可能な体制を整備し、多様な組織を編成するように工夫している。

保健学研究科は、明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生、論理的考察力と客観的判断力を持った学生、国際的視野に立って研究・実践する能力を持った学生、自らの専門性に対する誇りと協調性を持った学生を求めており(保健学研究科アドミッションポリシー、<http://www.kobe-u.ac.jp/admission/grad/requirement-grad/#i-grad>)、学生定員と現員については、《資料5》のとおりである。博士前期課程の定員充足率は130%、博士後期課程の定員充足率は、168%である。なお、定員超過の一因として、本研究科には、社会人学生が多く、就労しながらも学ぶことができるように長期履修制度を取り入れていることの影響もある。

本研究科の入学希望者の多くは医療専門職者である。一定期間の社会経験を経たのちに高度専門職者として修学するために入学を希望している。このため社会経験者に対しては社会人特別入試を実施し、多様な学生の選抜を実施している。また、看護学領域では、家族看護専門看護師の認定を得られるコースを設置し、さらに助産師の養成コースを、地域保健学領域では保健師の養成コースを設置する計画(平成28年度)であり、社会的ニーズに応じた多様な教育体制の整備も行っている。

《資料3：教員の配置状況（平成27年5月1日現在）》

	収容定員		専任教員数（現員）					助手	非常勤等	専任教員一人当たり学生収容定員
	前期	後期	教授	准教授	講師	助教	計			
保健学 博士課程	112	75	27	17	3	27	74	0	16	2.5

《資料4：研究指導教員数及び研究指導補助教員数（平成27年5月1日現在）》

	収容定員		研究指導教員	研究指導補助教員	計	設置基準で必要な教員数			
	前期	後期				研究指導教員		研究指導補助教員	
						M	D	M	D
保健学 博士課程	112	75	42	32	74	8	9	4	3

《資料5：学生定員と現員の状況（平成27年5月1日現在）》

	定員（名）	現員数（名）					定員充足率（%）	専任教員一人当たりの学生現員数
		1年次	2年次	3年次	4年次	計		
保健学 博士課程(前期)	112	68	78	—	—	146	130	3.7
保健学 博士課程(後期)	75	28	28	70	—	126	168	

本研究科では教務学生委員会が、教育システム、カリキュラムの改善を検討し、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の業務を担っている。同委員会は月1回開催しており、教育内容・教育方法の改善に係る検討結果は、FD研修会を通じて教員間で共有されている《資料6》。教育の質の改善・向上を図るために、FD活動や教育研究成果の自己点検を実施している。さらに優秀な教員を確保するために教員選考にあたっては、教育研究成果のみならず、実際のプレゼンテーション能力を確認している。平成24年度には自己点検・評価を実施し、その分析結果をもとに、教育の質の更なる向上に向けて、FD研修会の実施、教員活動評価、優秀な活動をした教員に対して名谷保健学賞の授与等を実施している。

《資料6 平成26年度、平成27年度 FD研修会》

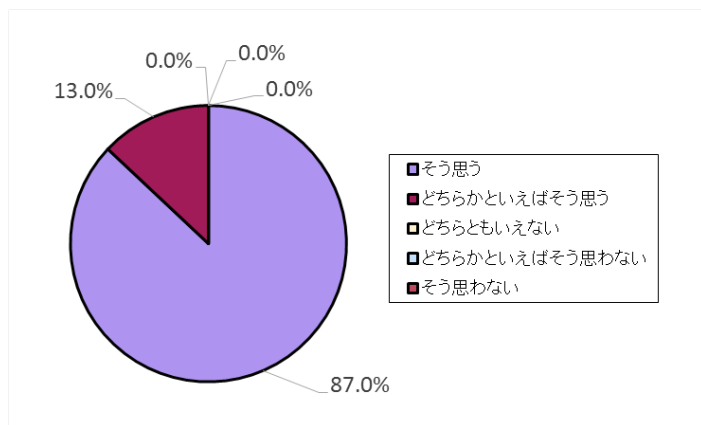
日時	場所	講師	所属	職名	講演テーマ
平成26年 10月8日	保健学研究科B201講義室	亀岡 正典	保健学研究科	准教授	「国際保健・感染症セミナー」海外で気をつける感染症とその予防
		入子 英幸	保健学研究科	准教授	「国際保健・感染症セミナー」

					一」寄生虫感染について
平成 26 年 10 月 15 日	保健学研究 科大会議室	吉野 太郎	関西学院大学総 合政策学部メデ ィア情報学科	専任講師	ハラスメントのないキャン パスを目指して - その歴 史・現状と対策 -
平成 27 年 3 月 19 日	保健学研究 科大会議室	近田 政博	大学教育推進機 構	教授	アクティブラーニングにつ いて
平成 27 年 7 月 15 日	保健学研究 科大会議室	米谷 淳	大学教育推進機 構	教授	神戸大学学修管理システム (B E E F) の活用に関する F D
平成 27 年 9 月 9 日	保健学研究 科大会議室	近田 政博	大学教育推進機 構	教授	初年次セミナー・アクティブ ラーニングに関する F D

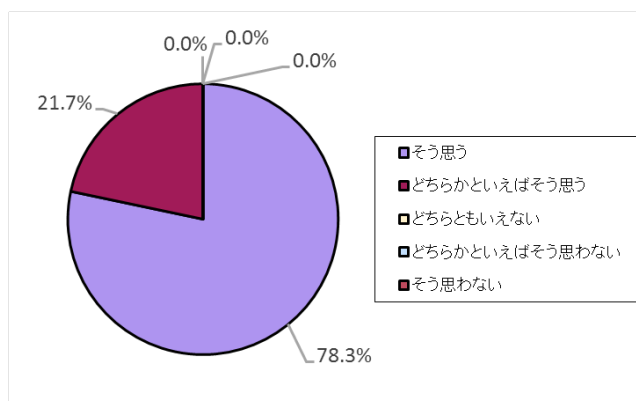
また、教育内容、教育方法について、教務学生委員会や領域会議で議論すると同時に、学生による授業評価アンケートを実施し、必要に応じて授業内容・方法の見直し、改善を行っている。これら取組が効果を上げていることは、例えば、平成 26 年度後期の授業評価アンケートにおける設問項目「担当教員の授業への熱意が感じられましたか。」、「授業はよく理解できましたか。」及び「総合的に判断して、この授業を 5 段階で評価してください。」において、肯定的な回答が 9 割以上を占めている状況などからも窺うことができる《資料 7》。

《資料 7：平成 26 年度後期 授業評価アンケート結果（抜粋）》

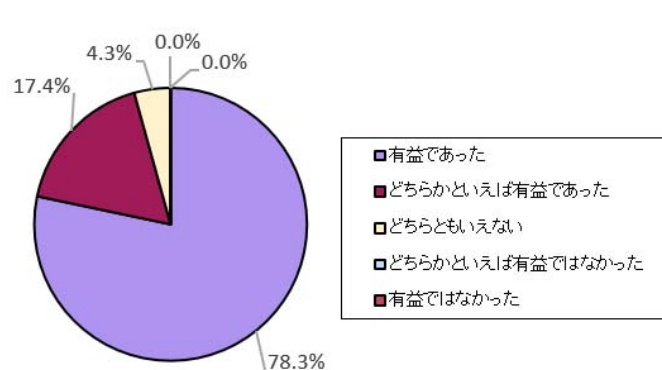
■ 担当教員の授業への熱意が感じられましたか。



■ 授業の内容はよく理解できましたか。



■ 総合的に判断して、この授業を 5 段階で評価してください。



(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

基本的組織の編成に関しては、社会動向を勘案した上で専門性に応じた適切な教育を実施するために適宜見直しを施している。また、教員組織についても、教育目的を達成する上で質的、量的に十分な教員が配置され、適切な配置がなされている。一方、現員数が収容定員数を超過していることから改善を要する点もある。

また、教務学生委員会や領域会議で教育内容、教育方法について議論し、見直しを行う体制を整えていることから、本研究科の教育の実施体制は期待される水準にあると判断する。

観点 教育内容・方法

保健学研究科学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は、《資料8》のとおりである。

《資料8 ディプロマ・ポリシー》

博士課程前期課程

臨床実践能力、直面する問題を多角的に分析する能力と問題の解決に必要な研究能力を身につけ、研究・教育・地域医療を柱とする総合保健医療の中で活躍できる教育・研究・医療専門職者を養成することを目標としている。

この目標到達に向け、本研究科では以下に示した2つの方針に従って修士の学位を授与する。

○保健学研究科に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得して審査に合格する。

○修了までに、保健学研究科学生が、それぞれの課程を通じて達成を目指す学習目標は次の通とする。

- ・人間性：豊かな教養と高い倫理性を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立した医療専門職者として、人々の健康を守るために行動できる。
- ・創造性：伝統的な思考や方法を真摯に学ぶとともに、これらの知識を批判的に継承し、受け継いだ思考や方法の中に新たな課題を発見して創造的に解決できる。
- ・国際性：多様な価値観を尊重し、異文化のより深い理解に努め、優れたコミュニケーション能力を発揮できる。国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を自ら創造するとともに、各々の地域の状況に最も相応しい形で適用することができる。
- ・専門性：それぞれの職業や学問分野において、深い学識と卓越した専門的能力を備える。さらに、専門領域を超え、医療保健福祉チームの一員として協働して働くことができる。

博士課程後期課程

これまでに修得した分析能力、問題解決能力、研究能力をさらに高度化し、創造的・開発的研究を通して、研究・教育・地域医療を柱とする新しい総合保健医療を創造・実践できる独創的かつ自立した教育・研究・医療専門職者を養成することを目標としている。

この目標到達に向け、本研究科では以下に示した22つの方針に従って博士の学位を授与する。

○保健学研究科に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得して審査に合格する。

○修了までに、保健学研究科学生が、それぞれの課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。

- ・ 人間性：豊かな教養と高い倫理性を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立した医療専門職者として、人々の健康を守るために行動できる。
- ・ 創造性：伝統的な思考や方法を真摯に学ぶとともに、これらの知識を批判的に継承し、受け継いだ思考や方法の中に新たな課題を発見して創造的に解決できる。
- ・ 国際性：多様な価値観を尊重し、異文化のより深い理解に努め、優れたコミュニケーション能力を発揮できる。国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を自ら創造するとともに、各々の地域の状況に最も相応しい形で適用することができる。
- ・ 専門性：それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担えるように、深い学識と高度で卓越した専門的能力を備える。さらに、専門領域を超え、医療保健福祉チームの一員として協働して働くことができる。

次に、保健学研究科におけるカリキュラム・ポリシーは、次のとおりである。（保健学研究科カリキュラムポリシー：

http://www.kobe-u.ac.jp/documents/campuslife/edu/policy/g09_cp_hs_2014.pdf

これらのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに対応して保健学専攻博士課程（前期及び後期課程）の授業科目は、共通科目及び専門科目（必修科目並びに選択科目）からなる。共通科目は保健医療に関する倫理、教育、管理、疫学等の知識を修得させることを目的としており、専門科目は専門分野の知識と技術を修得し、高度専門性と研究能力を向上させることを目的としている。また、他領域を始めとして、修得単位の制限はあるものの他研究科の科目も受講可能としており、カリキュラム・ポリシーに沿った適切な内容となっている。《資料9 保健学専攻博士課程授業科目を参照》

《資料9 保健学専攻博士課程授業科目》

<p>保健学専攻博士課程（前期課程） 共通科目</p>	<p>「保健倫理学特講 I」、「臨床心理学特講 I」など 12 科目が開講されている。また専門科目は各領域 5～27 科目、特別研究 1～5 科目で構成されている。博士前期課程特別研究は研究方法、研究技法、研究者倫理、キャリア開発などのスキル、論文の執筆活動による論理的思考を獲得し、分析能力、問題解決能力、倫理観に富むリサーチマインドを育成することを目的としている。修了要件は 30 単位以上としている。《資料9 - 1》</p>
<p>保健学専攻博士課程（後期課程）</p>	<p>授業科目は共通科目として「医療保健統計・疫学特講 II」、「社会・保健行動科学研究法特講 II」など 10 科目、専門科目として各分野 4～27 科目、特別研究 7 科目で構成されている。博士後期課程特別研究は主体的な研究を行う上で必要なアイデアや独創性、研究論文としてまとめる能力を養うことに重点を置き、学生の発想、論理、思考、研究分析等の能力を高め、専門分野の実践の場において優れた指導力が発揮できる高度専門職指導者や研究・教育者の養成に重点を置く。指導教員の担当する専門科目 8 単位以上を履修させ、共通科目 2 単位を含め 12 単位以上を修了要件としている。《資料9 - 2》</p>

神戸大学保健学研究科 分析項目 I

<p>家族看護専門看護師 (CNS)</p>	<p>CNSに係るコースの履修要件は以下のとおりである。CNSの資格要件として、日本看護系大学協議会に認定された修士・博士前期課程教育課程を修了することが求められており、同課程では、共通科目（①看護教育論、②看護管理論、③看護理論、④看護研究、⑤コンサルテーション論、⑥看護倫理、⑦看護政策論）の8単位、専門科目12単位、実習科目6単位を含む26単位以上を履修することとなっている。そのため、本学の家族支援CNSコースでは、看護学領域共通科目「看護教育特講Ⅰ」「看護研究特講Ⅰ」「看護倫理特講Ⅰ」「看護管理特講Ⅰ」「看護コンサルテーション特講Ⅰ」から8単位を修得し、専門科目12単位を「家族健康論Ⅰ」「家族看護展開論Ⅰ」などから修得する構成となっている。《資料9-1》。さらに、実習6単位は「家族看護基盤実習Ⅰ」「家族看護展開実習Ⅰ」によって修習得する。また、これらのCNS資格要件の修得取得単位に加えて、本学の家族支援CNSコースでは「家族看護課題研究Ⅰ」4単位を設け、合計30単位の修得取得を修了要件としている。</p>
<p>国際実践 (IAH ; International Activity for Health)</p>	<p>平成20年度に文部科学省大学院教育改革支援プログラムとして採択された「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」を活用し、国際実践 (IAH ; International Activity for Health) コースを平成20年4月からに新設した。本取組を通じて、保健活動を展開するためのコミュニケーション能力や異文化理解能力を有し、アジア諸国における社会・経済状態や生活様式に適合した総合保健学を創造・実践でき、国際的に活動できる高度保健専門職者並びに教育・研究者の養成が可能となった。</p> <p>海外からはフィリピン、マレーシア、タイ、エジプト、国内からはWHOや大阪大学、北海道大学から、疫学、母子保健、災害保健、感染症、生活習慣病のエキスパートによる英語講義を行っている。《別添資料1:大学院教育改革支援プログラム アジアにおける双方向型保健学教育の実践 資料9-3:2015 International Course for Health Sciences Summer Educational Program》。</p>
<p>大学の世界展開力強化事業</p>	<p>平成24年度より、日本学術振興会の大学の世界展開力強化事業プログラム「ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」が採択され、IAHコースで信頼関係を築いたガジャマダ大学、インドネシア大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学との関係をより発展させ、様々な交流や交換留学を行った。(資料1 4 III「質の向上度」の分析(1)分析項目I 教育活動の状況の事例①を参照)</p>
<p>ICHS (International Course for Health Sciences)</p>	<p>前述のIAHをもとに、平成24年度より全5領域の大学院生である日本人学生及び外国人留学生を対象に、修学期間を通じて英語による授業を受講し、学位の取得を目指すことができるコース (ICHS) を開講した。本コースは平成24年度前期課程にて共通科目10科目、専門科目33科目を開講し、平成26年度より後期課程に拡張し、共通科目8科目、専門科目29科目を開講した。専任教員および国内外の講師による Summer Educational Program を開講している。</p>

《資料9 - 1 : 保健学研究科保健学専攻博士前期課程における授業科目の配置》

区分	科目名		単位数
共通科目	保健倫理学特講 I		2
	臨床心理学特講 I		
	情報科学特講 I		
	エビデンスベーストヘルスケア特講 I		
	分子生物学特講 I *ICHS		
	移植・人工臓器学特講 I		
	バイオサイエンス特講 I *ICHS		
	医療保健福祉特講 I		
	国際保健コミュニケーション特講 I *ICHS		
	IPW 特講 I *ICHS		
	国際実践特講 I *ICHS		
	国際実践フィールドワーク I *ICHS		
看護学 専門科目	看護学領域共通科目	看護教育特講 I, 看護研究特講 I, 看護倫理特講 I, 看護管理特講 I, 看護コンサルテーション特講 I (全て CNS)	2
	看護実践学特講 I, 看護実践学演習 I, 療養支援看護学特講 I, 療養支援看護学演習 I, 在宅看護学特講 I, 在宅看護学演習 I, 家族看護学特講 I, 家族看護学演習 I, 家族看護学基盤実習 I*, 母性看護学特講 I, 母性看護学演習 I, 上級病態生理学*, 上級臨床薬理学*, 上級フィジカルアセスメント学*, 家族環境学*, 理論家族看護学*, 家族症候学*, 家族インターベーション学*, 実践家族看護学*, 実践家族看護学演習*, トランス文化家族看護学**, こども保育期・教育期家族看護学*, 家族看護学演習 I (*CNS)		2
	家族看護学展開実習 I*, 家族看護学統合実習 (全て CNS)		4
	看護実践学特別研究 I, 療養支援看護学特別研究 I, 在宅看護学特別研究 I, 家族看護学特別研究 I, 実践家族看護学研究 *CNS, 母性看護学特別研究 I		10
病態解析学 専門科目	分析医科学特講 I, 分析医科学演習 I, 細胞機能構造科学特講 I, 細胞機能構造科学演習 I, 病態代謝学特講 I, 病態代謝学演習 I, 臨床免疫学特講 I, 臨床免疫学演習 I, 病態解析学専門領域実習 I, Advanced lectures in lifestyle related diseases I*, Advanced practice in lifestyle related diseases I* (*ICHS)		2
	病態解析学特別研究 I *ICHS		10
リハビリテーション科学 専門科目	リハビリテーション科学領域共通科目	リハビリテーション科学総合実習(1) I, リハビリテーション科学総合実習(2) I, リハビリテーション科学専門領域実習 I, リハビリテーション管理学特講 I, 福祉工学・建築学特講 I, リハビリテーション科学研究法特講 I*, リハビリテーション科学研究法演習 I* *ICHS	2

神戸大学保健学研究科 分析項目 I

	生体構造・機能解析学特講 I, 生体構造・機能解析学演習 I, 運動機能障害リハビリテーション学特講 I, 運動機能障害リハビリテーション学演習 I, 作業障害解析・補完学特講 I, 作業障害解析・補完学演習 I, 脳機能障害リハビリテーション学特講 I, 脳機能障害リハビリテーション学演習 I, 精神障害リハビリテーション学特講 I, 精神障害リハビリテーション学演習 I, 脳情報通信システム特論 I, 生体ゆらぎ論 I, 人間情報科学特論 I		
	生体構造・機能解析学特別研究 I*, 運動機能障害リハビリテーション学特別研究 I, 作業障害解析・補完学特別研究 I, 脳機能障害リハビリテーション学特別研究 I, 精神障害リハビリテーション学特別研究 I *ICHS	10	
地域保健学 専門科目	地域保健学領域共通科目	ヘルスプロモーション学特講 I, 地域実践活動特別演習 I *ICHS, 地域保健学実習 I	2
		生活習慣病・予防治療学特講 I, 地域保健実践学特講 I	2
		地域保健・健康科学特別研究 I *ICHS	10
国際保健学 領域	感染症学特講 I, 細菌学演習 I, 寄生虫学演習 I, ウイルス学演習 I, 国際保健・災害医療学特講 I, 国際保健支援論特講 I, 国際保健支援論演習 I, 災害マネジメント論特講 I, 災害マネジメント論演習 I, 病理病態学特講 I, 病理病態学演習 I, 国際保健フィールドワーク I, 公衆衛生学特講 I, 公衆衛生学演習 I, 疫学特講 I, 環境保健学特講 I, 医療人類学特講 I, 保健医療論特講 I, 国際保健研究方法論特講 I, 人口学特講 I, 国際開発特別研究 I (全て ICHS)	2	
		感染症対策特別研究 I, 国際保健協力活動特別研究 I	10

《資料 9 - 2 : 保健学研究科保健学専攻博士後期課程における授業科目の配置》

区分	科目名	単位数
全領域共通 科目	医療保健統計学・疫学特講 II	2
	社会・保健行動科学研究法特講 II	
	精神保健学特講 II	
	形態機能研究法特講 II	
	分子生物学研究法特講 II *ICHS	
	バイオサイエンス特講 II *ICHS	
	IPW 特講 II *ICHS	
	国際実践特講 II *ICHS	
	国際実践フィールドワーク II *ICHS	
国際実践フィールドワーク演習 II *ICHS		
看護学 専門科目	看護実践学特講 II, 療養支援看護学特講 II, 看護実践開発学演習 II, 在宅看護学特講 II, 在宅看護学演習 II, 家族看護学特講 II*, 家族看護学演習 II, 母性看護学特講 II, 母性看護学演習 II (*ICHS)	2
	看護学特別研究 II	4
病態解析学 専門科目	ICHS, Advanced lectures in lifestyle related diseases II*, Advanced practice in lifestyle related diseases II*, 分析医科学特講 II, 分析医科学演習 II, 細胞機能構造科学特講 II, 細胞機能構造科学演習 II, 病態代謝学特講 II, 病態代謝学演習 II, 臨床免疫学特講 II, 臨床免疫学演習 II (*ICHS)	2
	病態解析学特別研究 II *ICHS	4
リハビリテ ーション科 学専門科目	リハビリテーション科学研究法特講 II *ICHS, リハビリテーション科学研究法演習 II *ICHS, 生体構造・機能解析学特講 II, 生体構造・機能解析学演習 II, 運動機能障害リハビリテーション学特講 II, 運動機能障害リハビリテーション学演習 II, 脳機能障害リハビリテーション学特講 II, 脳機能障害リハビリテーション学演習 II, 精神障害リハビリテーション学特講 II, 精神障害リハビリテーション学演習 II, 脳情報通信システム特論 II, 生体ゆらぎ論 II, 人間情報科学特論 II	2

神戸大学保健学研究科 分析項目 I

	リハビリテーション科学特別研究Ⅱ *ICHS	4
地域保健学 専門科目	ヘルスプロモーション学特講Ⅱ, 地域実践活動特別演習Ⅱ *ICHS, 生活習慣病・予防治療学特講Ⅱ, 地域保健実践学特講Ⅱ	2
	地域保健・健康科学特別研究Ⅱ *ICHS	4
国際保健学 領域専門科目	国際保健フィールドワーク特別研究Ⅱ, フィールドワーク演習Ⅱ, 感染症学特講Ⅱ, 細菌学演習Ⅱ, 寄生虫学演習Ⅱ, ウイルス学演習Ⅱ, 国際保健支援論特講Ⅱ, 国際保健支援論演習Ⅱ, 災害マネジメント論特講Ⅱ, 災害マネジメント論演習Ⅱ, 障害者支援地域論演習Ⅱ, 病理病態学特講Ⅱ, 病理病態学演習Ⅱ, 公衆衛生学特講Ⅱ, 公衆衛生学演習Ⅱ, 疫学特講Ⅱ, 環境保健学特講Ⅱ, 医療人類学特講Ⅱ, 保健医療論演習Ⅱ, 感染症論演習Ⅱ, 人口学特講Ⅱ, 国際保健研究方法論演習Ⅱ (全て ICHS)	2
	国際保健学特別研究Ⅱ *ICHS	4

《資料 9 - 3 2015 International Course for Health Sciences Summer Educational Program》

2015 International Course for Health Sciences Summer Educational Program

国際実践特講Ⅰ・Ⅱ (International PracticeⅠ・Ⅱ) \ 国際実践フィールドワークⅠ・Ⅱ (International Fieldwork PracticeⅠ・Ⅱ) 開講時間割

Date		1 (9 : 00 ~ 10 : 30)	2 (10 : 40 ~ 12 : 10)	3 (13 : 10 ~ 14 : 40)	4 (14 : 50 ~ 16 : 20)
9/17 Tur E803	Class		International PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践特講Ⅰ・Ⅱ		International PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践特講Ⅰ・Ⅱ
	Subject		Nursing situation in Thailand		Bottom-up approach in Global Health: introduction to community-based nutrition research
	Lecturer		Dr. Phanida Juntasopeepun, PhD, RN Assistant Professor and Assistant Dean Faculty of Nursing, Chiang Mai University		北海道大学大学院保健科学研究院 教授 山内 太郎先生
9/18 Fri E803	Class	International Fieldwork PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践フィールドワークⅠ・Ⅱ	International Fieldwork PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践フィールドワークⅠ・Ⅱ	International PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践特講Ⅰ・Ⅱ	International PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践特講Ⅰ・Ⅱ
	Subject	高齢社会について	災害医療について	Strategies to promote international nursing at the Faculty of Nursing, Chiang Mai University	Invitation to the parasite world
	Lecturer	WHO神戸センター 所長 アレックス・ロス先生	WHO神戸センター テクニカル・オフィサー 茅野 龍馬先生	Dr. Phanida Juntasopeepun, PhD, RN Assistant Professor and Assistant Dean Faculty of Nursing, Chiang Mai University	神戸女子大学 教授 宇賀 昭二先生
9/19 Sat E803	Class		International PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践特講Ⅰ・Ⅱ	International PracticeⅠ・Ⅱ 国際実践特講Ⅰ・Ⅱ	
	Subject		Diabetes Mellitus Overview	Emerging infectious diseases associated with bat-borne viruses	
	Lecturer		国際医療福祉大学 講師 岸本美也子先生	大阪大学微生物病研究所 特任准教授 小林 剛先生	

次に教育方法に関する状況は、次の通りである。

前期課程、後期課程とも授業形態は、前掲《資料 9 - 1、9 - 2》のように『共通科目』

神戸大学保健学研究科 分析項目 I

は講義形式で実施され、『専門科目』は講義、演習、研究からなり、講義が 49%、演習が 32%、研究が 19%である。領域担当教員が開講する授業に加えて、前期課程では、履修要件 30 単位以上のうち共通科目から 6 単位以上、専門科目 14 単位以上（特論 2 単位以上、演習 2 単位以上、特別研究 10 単位）を修得し、残りの必要単位は、他領域専門科目または他研究科専門科目からの修得も可能としている。また、後期課程では、履修要件 12 単位以上のうち共通科目から 2 単位以上、専門科目 8 単位以上（特講 2 単位以上、特講演習 2 単位以上、特別研究 4 単位）を修得し、多様な保健・医療の領域を学習できる体制を整えている。演習、研究の比率が高いのは、高度な専門知識と技能が求められる本専攻特有の性格に起因するものであり、教育目的に合致したものである。その他教育方法は《資料 10》のとおりである。

《資料 10 その他教育方法》

学習指導法の工夫	基幹 3 領域と融合 2 領域の観点から、本研究科の基本理念である「総合保健医療 (total health care)」に立脚し、かつ領域を超えた教育が受けられるよう複数指導教員制と中間発表会を設けることにより特別研究の進展をサポートしている。また、カリキュラムに沿った授業以外に、病院で開催される研修会など実地教育に役立つ機会を単位化できる制度《別添資料 2：リハビリテーション科学領域のシラバス》を設け、特に 14 条特例の社会人 学生が学習しやすい体制を構築している。
「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」プログラム	文部科学省大学院教育改革支援プログラムに採択された「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」プログラムを平成 20 年度からに開始し、国際貢献できる実践的な高度保健専門職者を養成している。このプログラムでは、フィールドワークを中心とした国際実践コースの開発とともに、外国人教員による英文論文作成支援体制を整備して、特徴ある高度の教育環境を形成している。
大学の世界展開力強化事業	平成 24 年度より、日本学術振興会の大学の世界展開力強化事業プログラム「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」が採択され、保健学グローバルリーダーとなる保健医療専門職を養成している。派遣前には派遣前教育として、プレゼンテーションスキルのための講義や、渡航国についての事前学習などを設けた。現地では感染症や母子保健などをテーマとした施設を活用し、研究も行っている。共同セミナーも開催し、本プログラムに多数の大学院生が関わることができるよう広く開かれたものとした(Ⅲ「質の向上度」の分析(1)分析項目 I 教育活動の状況の事例①を参照)。
家族看護専門看護師 (CNS)	平成 19 年度に開設した CNS コースも家族支援のための高度なコミュニケーション能力・実践能力・研究能力を培う特徴ある教育形態として継続している。所定の単位を修得し、所定の実務経験を積むことで、家族支援専門看護師の認定審査受験資格を得る、実地教育に重点を置いた構成を取っている。
シラバス	教務情報システム「うりぼーネット」においてシラバスの確認が可能であり、すべての共通科目と専門科目（必須科目ならびに選択科目）が示されている。また、履修要件に関しては、学生便覧において説明している。
社会人学生の履修	社会人学生の履修を容易にするため、大学院設置基準第 14 条に基づく教育方法の特例を適用し、平日の夜間や土日に授業を開講しており、本研究科に在籍する学生に配慮した時間割を設定している。研究指導や履修相談等についても、

	指導教員が平日の夜間・土日に電子メール等で対応している。
主体的な学習を促す取組	<p>前期・後期課程では、授業形式の特講と同名の演習があり、課題提出やレポートの評価が行われる。特講は講義形式で行い、演習は抄読会あるいは課題へのレポートとして行われ、特別研究では、研究を行い、論文を作成するため、学生は主体的に取り組む必要がある。</p> <p>主体的な学習を促す取組として、在校生の情報共有・学生間交流・修業促進を目的とした在校生一斉のオリエンテーションを年2回行い、情報提供や講義を通じて、領域間との交流を図っている。長期履修制度を申請した学生であっても、研究の進捗状況によっては、修業年限を短縮して卒業可能とした。また、大学院生の居室（自習室6室、席数80）を設け、24時間使用可能としている。神戸大学附属図書館保健科学図書室は約24,000タイトルの電子ジャーナルに加え、58,689冊の蔵書を有し、平成26年度は学生のニーズに応じて新たに1,064冊の保健学分野の学生用図書を選定・購入した。保健科学図書室の利用に際しては、平日夜間と土日も開館し学生への便宜を図っている。</p>

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

教育課程に関しては、共通科目及び専門科目からなる保健学専攻博士課程（前期及び後期課程）が編成されている。特徴的なものとして家族看護専門看護師養成に係る CNS コース並びに国際的に活動できる高度保健専門職者並びに教育・研究者の養成を目的とした国際実践（IAH）コースを設置している。

授業構成は、演習、特別研究の比率が高く、本研究科の教育目的に沿ったものになっている。また、学生の主体的な学習を支援するため、研究遂行に必要な演習や、専門領域だけでなく関連領域の研究内容を学習できるような環境整備、自習室の24時間開放のほか、国際学会への発表や英語論文の作成を支援するため、専任の外国人講師による会話・発表・論文作成等の講義の実施、提携大学への学生派遣など、国際的な場で活躍ができるようなサポートを行っている。専任の外国人講師による講義については多数の学生が参加し、想定していた回数を上回る開催を行った。また、提携大学への渡航についても、数多くの学生と教員が参加し、国際貢献ができる実践的な人材育成により役に立った。

これらのことから、本研究科の教育内容・方法は期待される水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

学生が身に付けた学力や資質・能力

本研究科の教育成果の指標として、過去5年間（平成23～27年度）の学位授与状況を調査したところ、博士前期課程の標準修業年限内での学位（修士）取得者率は81.8%、標準修業年限×1.5年の学位（修士）取得修了者率は85.4%であった。また、平均留年率は3.6%、平均退学率は5.4%であった。博士後期課程の標準修業年限内での学位（博士）取得者率は33.3%、標準修業年限×1.5年の学位（博士）取得修了者率は45.8%であった。また、平均留年率は20.8%、平均退学率は8.3%であった。《資料11》

また、多数の大学院生が国際学会、全国規模の国内学会等で研究成果を発表し、優秀論文賞を受賞するなど、研究成果が各種学会等において評価されている。《資料12》

《資料11：保健学研究科における学位授与率》

授与年度	専攻	定員	入学者数 (入学年度)	授与者総 数	修業年 限内修 了者	標準修業年 限×1.5年	留年数	退学数	修業年限内 修了者の学 位授与率 (%)	標準修業年 限×1.5年の 学位授与率 (%)	留年率(%)	退学率 (%)
平成23年度	博士前期課程 (修士課程)	56	52 (平成21年度)	47	43	46	1	4	82.7	88.0	1.9	7.7
	博士後期課程 (博士課程)	25	27 (平成20年度)	17	9	16	6	4	33.3	59.0	22.2	14.8
平成24年度	博士前期課程 (修士課程)	56	57 (平成22年度)	54	52	54	1	2	91.2	95.0	1.8	3.5
	博士後期課程 (博士課程)	25	21 (平成21年度)	10	7	10	6	4	33.3	48.0	28.6	19.0
平成25年度	博士前期課程 (修士課程)	56	62 (平成23年度)	56	51	56	0	5	82.3	90.0	0.0	8.1
	博士後期課程 (博士課程)	25	21 (平成22年度)	13	11	13	4	0	52.4	62.0	19.0	0.0
平成26年度	博士前期課程 (修士課程)	56	53 (平成24年度)	39	39	39	6	2	73.6	74.0	11.3	3.8
	博士後期課程 (博士課程)	25	22 (平成23年度)	7	7	7	5	0	31.8	32.0	22.7	0.0
平成27年度	博士前期課程 (修士課程)	56	52 (平成25年度)	42	42	42	0	0	81.0	81.0	0.0	0.0
	博士後期課程 (博士課程)	25	28 (平成24年度)	8	8	8	4	1	29.0	29.0	14.3	4.0
(平均) 平成23年度 ～平成27年 度	博士前期課程 (修士課程)	56	55	48	45	47	2	3	81.8	85.4	3.6	5.4
	博士後期課程 (博士課程)	25	24	11	8	11	5	2	33.3	45.8	20.8	8.3

《資料 12：優秀論文賞等受賞状況》

受賞年度	賞名	学会名、論文掲載 雑誌名等	論文テーマ	博士 / 修士
平成 23 年度	若手研究奨励賞	日本内分泌学会 学術総会	2型糖尿病候補遺伝子 KCNQ1 の 膵β細胞に及ぼす役割の検討	修士
平成 24 年度	学術奨励賞	日本臨床分子医 学会	Kcnq1 遺伝子領域におけるエピ ジェネティクス制御が膵β細胞 量に及ぼす影響の解析	修士
平成 25 年度	優秀講演賞	第 1 回看護理工学 会学術集会	下着のサポート力による骨盤内 臓器挙上作用のメカニズムの検 討	博士
平成 25 年度	ASRM Nurse Research Award	69th Annual Meeting of the American Society for Reproductive Medicine	Voluntary contraction of the pelvic floor muscles measured by magnetic resonance images in a sitting posture and factors responsible for pelvic relaxation	博士
平成 27 年度	Young Investigator Award	第 19 回国際膵臓 学会	Insulin-Producing Cells Derived from the Immortalized Pancreatic Stem Cells	修士
平成 27 年度	Young Investigator Award	第 19 回国際膵臓 学会	Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Primes the Adjacent Normal Ducts for a Precancerous Phenotype	修士
平成 27 年度	第 22 回日本排尿機能 学会 学会賞(論文部 門)	日本排尿機能学 会 【 LUTS, 6(2), 81-87, 2014. の論 文に対して】	Single-Arm Pilot Study to Determine the Effectiveness of the Support Power of Underwear in Elevating the Bladder Neck and Reducing Symptoms of Stress Urinary Incontinence in Women.	博士

学業の成果に関する学生の評価

博士前期課程の開講授業科目を対象に毎学期実施している授業評価アンケートの結果（《資料 7》を参照）によると、授業理解に関する設問に対する肯定的な回答は 100 %、総合的な満足度に関する設問に対する肯定的な回答は 95.7 %となっており、一定の達成度、満足度を与えている。平成 26 年度修了者に対して実施したアンケート調査では、保健学研究科を修了することへの満足度は高く、教育や研究の充実や、国際性などが高い評価を受けている（資料 13）。

神戸大学保健学研究科 分析項目Ⅱ

《資料 13：平成 26 年度 保健学専攻修了者に対するアンケート調査結果（神戸大学の特に優れている点）》

神戸大学の特に優れている点									
明確な使命・学風を持っている	留学生が多い、海外交流が盛んであるなど、国際性を重視している	優れた教育を行っている	高いレベルの研究を行っている	教育や研究のための施設・設備が整っている	フィールドワーク・実学・実験を重視している	政界・官界・財界など多方面で活躍する人材を多く輩出している	新領域・学際領域の開拓に積極的に取り組んでいる	社会との連携を重視している	その他
3%	17%	30%	13%	13%	3%	7%	3%	7%	3%

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

標準修業年限卒業率及び標準修業年限×1.5年以内卒業率の状況、留年率、休学率、退学率、学位授与状況、学生の受賞状況等から判断して、教育目的に沿った効果があがっているといえる。また、在学生、修了者を対象としたアンケート結果においても、高い満足度が得られていることから、学業の成果は期待される水準にあると判断する。

観点 進路・就職の状況

平成 23 年度～27 年度の大学院前期課程修了者 270 名の進路状況は、博士後期課程進学が 66 名 (24.4%)、就職が 218 名 (95.6%) であった (進学かつ就職した者がいるため、修了者数と進路内訳は一致しない)。就職先は、本研究科の教育目的に合致した分野・職種への就職者が多く増えており、医療福祉職 (大学付属病院、市中病院、リハビリテーション施設など) が 104 名 (47.7%)、学校教育職 (大学、短大、専門学校) が 57 名 (26.1%) であった。

平成 23 年度～27 年度の大学院後期課程修了者 91 名の就職状況は、83 名 (94.3%) であり、主な就職先は大学・短期大学 (ポスドクを含む) が 60 名 (68.2%)、民間企業などが 23 名 (26.1%) であった。《資料 14、15》

《資料 14 修了年度別の就職・進学状況》

(1) 博士課程前期課程

修了年度	卒業者数	就職希望者数	就職 (内定者) 数	就職希望者就職率	進学者数	進学率
H23	47	35	31	88.6%	7	14.9%
H24	55	48	46	95.8%	16	29.1%

神戸大学保健学研究科 分析項目Ⅱ

H25	52	42	38	90.5%	16	30.8%
H26	51	46	46	100.0%	16	31.4%
H27	65	57	57	100.0%	11	16.9%
H23～H27	270	228	218	95.6%	66	24.4%

(2) 博士課程後期課程

修了年度	卒業者数	就職希望者数	就職（内定者）数	就職希望者就職率
H23	23	23	22	95.7%
H24	12	12	10	83.3%
H25	22	20	20	100.0%
H26	18	17	15	88.2%
H27	16	16	16	100.0%
H23～H27	91	88	83	94.4%

《資料 15 業種ごと就職数》

(1) 博士前期課程

	H23	H24	H25	H26	H27	H23～H27
医療福祉職(大学付属病院、市中病院、リハビリテーション施設等)	18	24	16	28	18	104
学校教育職(大学、短大、専門学校)	5	5	8	4	35	57
その他(公務員、民間企業等)	8	17	14	14	4	57

(2) 博士課程後期

	H23	H24	H25	H26	H27	H22～H27
医療福祉職(大学付属病院、市中病院、リハビリテーション施設等)	8	1	5	3	3	20
学校教育職(大学、短大、専門学校)	14	9	14	10	13	60
その他(公務員、民間企業等)	0	0	1	2	0	3

大学の世界展開力強化事業により留学した1名の院生は、国際人材派遣コンサルタント会社に就職し、アジアでの保健に関するプロジェクト事業に取り組んでいる。

関係者からの評価

本研究科では平成24年4月に評価委員会が中心となり、就職先、保健学科卒業生及び保健学大学院修了生（平成24年3月卒業・修了生）に対して、在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関するアンケート《別添資料3》を実施した。就職先からの回答4847通（配布数114：回答率43%）、保健学科卒業生及び保健学研究科修了生の193人中84人から回答が寄せられた（回答率44%）。

就職先からの回答の結果から、質問全10項目で平均以上の評価が得られ、特に幅広い教養知識、総合的なものの考え方、プレゼンテーション能力、情報処理能力においては高い評価（3.7以上）を受けた《資料16》。

《資料16 平成22年度卒業生対象 就職先等アンケート結果（平成24年度実施）》

平成22年度卒業生対象 就職先等アンケート結果(平成24年度実施)
 神戸大学卒業生・大学院修了生の印象について、どのように評価されますか。

No	評価事項	評価選択肢					平均
		5.優れている	4.どちらかといえば優れている	3.普通	2.どちらかといえば劣る	1.劣る	
1	幅広い教養知識	11	20	16	0	0	3.89
2	高度の専門知識	6	21	18	2	0	3.65
3	英語などの外国語能力	3	19	24	1	0	3.51
4	総合的なものの見方	7	22	16	2	0	3.72
5	高い倫理観	5	21	20	1	0	3.63
6	問題解決能力	5	23	18	1	0	3.68
7	コミュニケーション能力	6	19	20	2	0	3.61
8	多様な価値観・異文化に対する理解	3	15	28	1	0	3.42
9	プレゼンテーション能力	9	18	19	1	0	3.74
10	情報処理能力	9	25	13	0	0	3.91

また、平成25年に三田市民病院、淀川キリスト教病院に卒業生・大学院修了生についての意見聴取に赴いた。本学卒業生・修了生に対する印象は専門知識においては他校生と遜色なく、協調性、倫理性、情報処理能力などでは優れているという高い評価が得られた《別添資料4》。

次に、卒業生・修了生に対するアンケートにおいては、76%が神戸大学での教育内容に満足していると回答している。質問全10項目で評価すると、幅広い教養知識、高度の専門知識、高い倫理観などは一定の評価を受けた。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

就職・進学状況は良好であり、卒業生に対するアンケートでも教育内容への満足度は高く、一定の評価を受けている。また、就職先への意見聴取結果において、就職先からは卒業生の学力・資質を高く評価するコメントを頂戴していることから、本研究科の進路・就職状況は期待される水準にあると判断する。

Ⅲ「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

事例① 日本学術振興会「大学の世界展開力強化事業」採択に伴う保健学グローバルリーダーの育成の取組

本学では、平成 24 年度に大学の世界展開力強化事業プログラム「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」が採択され、神戸大学等がコンソーシアムを構成し、さまざまに取り組みを行っている《資料 17》。

本プログラムにおいて、日本人大学院生の派遣として、平成 24~27 年度は、ガジヤマダ大学、インドネシア大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学に、博士前期課程 16 名、博士後期課程 2 名が派遣された。派遣前には派遣前教育として、プレゼンテーションスキルのための講義や、渡航国についての事前学習などを設けた。渡航した日本人大学院生は、現地での講義・演習への参加を通じ、渡航国の保健医療の現状を体験的に学んだ。また、感染症や母子保健などをテーマとして現地の施設を活用し、研究も行っている。それらの成果として、学会発表（4 人）、論文発表（1 人）の成果を得ている。留学生受入としては平成 24~27 年度は、ガジヤマダ大学、チェンマイ大学から博士前期課程 4 名を受け入れた。留学生は日本国内での研究調査や、英語による講義や演習、病院見学実習などを通じ、日本の保健医療システムの理解を深めた。留学生は保健学科で行われている看護の基礎教育の講義・演習に参加し、日本の保健医療教育の実態を体験的に学習した。これらの活動には日本人大学院生がチューターとして同行し、通訳や指導にあたることとしており、日本人大学院生が留学生とともに学ぶ機会となっている。またゼミでは、留学生の研究テーマである母子保健やタイの保健医療制度についてのプレゼンテーションを行い、日本人大学院生とのディスカッションを通じ、お互いがリサーチマインドを高めると同時に、本学大学院生の国際理解、異文化理解を深める機会となっている。

大学院生の参加するセミナーも開催されており、平成 24 年度 2 回、平成 25 年度 3 回、平成 26 年度 2 回、平成 27 年度 1 回、行っている。セミナーは国内キャンパスのみならず、インドネシアで開催するなど、国際的に交流の場を広げている。国内キャンパスでのセミナーであっても国内参加者だけでなく、テレカンファレンスシステムを用いて国外と通じ、外国人の参加も可能として開催している。本学では英語で単位修得できる ICHS が設けられており、大学院生の国際的素養の涵養に努めているが、ICHS との共同セミナーも開催し、本プログラムに多数の大学院生が関わることができるよう広く開かれたものとした。本プログラムで招聘したチェンマイ大学教員による国際保健セミナー等も開催し、大学院生が外国人による講義を聴講することのできる機会を設けた《資料 18》。テレカンファレンスシステムはその機能から同時多施設開催が可能であり、平成 25 年度の Cooperation and Collaboration Programs with ASEAN Universities Thailand-Japan research seminar on global health and infectious diseases は、神戸大学医学研究科・タイ マヒドン大学の 3 拠点で行った《資料 19 - 1、19 - 2》。セミナーでは大学院生からの英語による質疑応答も活発に行われた。以上のように、本プログラムによって教育課程及び教育内容の充実につながった。派遣院生、受入院生の報告レポートからは (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/voice/index.html>)、アジアの保健医療に関する問題点について改めて考え、課題に取り組む姿勢が示されており、セミナー参加者は 56 名を超え、参加者からは、「すべての医療職者に英語は重要であると感じた」「ASEAN について興味が高まった」（平成 27 年度 ICHS 活動報告書）、など国際的に活躍する医療専門職の素養

を涵養できていた。

《資料 17：「ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」概念図》



《資料 18：国際保健セミナー開催のお知らせ》



国際保健セミナー開催のお知らせ

International Health Science Seminar at Kobe University
Graduate School of Health Sciences
February 12, 2014

国際保健に関するテーマで以下の講演会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。ご興味のある教員、大学院生、学生、留学生の皆様、ご出席いただければ幸いです。学外からの参加も大歓迎です。

世界展開力強化事業プログラム実施責任者
松尾博哉

日 時 平成26年2月12日（水） 午後6時～7時

場 所 神戸大学保健学研究科 E棟 8階 803号室

講義題目・講師

『Nursing Research and Education in Chiang Mai University』

Dr. Punpilai Sriarporn
Associate Professor
Faculty of Nursing, Chiang Mai University, Thailand

司会 松尾博哉（国際保健学領域）

講師の Punpilai Sriarporn 先生はタイにおける若年女性の health promotion 研究の第一人者です。産褥期のメンタルヘルス、月経関連健康障害等への健康支援に関してお話しいただく予定です。

《資料 19 - 1 Cooperation and Collaboration Programs with ASEAN Universities
Thailand-Japan research seminar on global health and infectious diseases》

Cooperation and Collaboration Programs with ASEAN Universities

Thailand-Japan research seminar on global health and infectious diseases

Date: 18 October 2013, 15:00-18:00

Venues: VOD conference room, Chamlong building, Mahidol University
Room E803, Kobe University Graduate School of Health Sciences
Main Lecture Hall, Kobe University Graduate School of Medicine

Program:

➤ **Opening remarks**

Yasuhiro Minami, Vice Dean, Kobe University Graduate School of Medicine 15:00

➤ **Session 1, Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University 15:10-15:40**

- Chonlatip Pipattanaboon, (Cloning and expression of Dengue recombinant proteins for Dengue vaccine design.)
- Phanthila Sirichaiyakul, (Gambicin: An antibiobial peptide as the therapeutic option for treatment of antibiotic-resistant bacteria and tropical pathogens.)

➤ **Session 2, Mahidol-Osaka Center for Infectious Diseases, Osaka University 15:40-16:10**

- Orapim Puiptom, (Characterization of chikungunya virus infection of a human keratinocyte cell line: Role of mosquito salivary gland protein in suppressing the host immune response.)
- Panjaporn Chaichang, (Sequence variation of Dengue virus 2 premembrane and envelope derived from patient plasma shows significantly different biological characteristics in human K562 cells.)

➤ **Session 3, Kobe University Graduate School of Health Sciences, Kobe University Graduate School of Medicine 16:10-16:55**

- Eriko Iwasaki / Graduate School of Health Sciences (Bone mineral density and bone turnover among young women in Chiang Mai, Thailand)
- Shuhei Ueda / School of Medicine Faculty of Health Sciences (Title TBA)
- Chyntia Jasirwan / Graduate School of Medicine (The human herpesvirus 6 U21-U24 gene cluster is not essential for virus growth)

➤ **Session 4, Lecture seminar 17:00-18:00**

- Pongrama Ramasoota / Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University (Thailand-Japan research collaboration on development of therapeutic products against Dengue virus)
- Masanori Kameoka / Kobe University Graduate School of Health Sciences (HIV/AIDS research at overseas research collaboration centers)

➤ **Closing remarks**

Satoshi Takada, Dean, Graduate School of Health Sciences, Kobe University 18:00

《資料 19 - 2 2013 International Course for Health Sciences Autumn Educational Program》

2013 International Course for Health Sciences Autumn Educational Program

国際実践特講 I・II (International Practice I・II) \ 国際実践フィールドワーク I・II (International Fieldwork Practice I・II) 開講時間割

Date		1 (9 : 00 ~ 10 : 30)	2 (10 : 40 ~ 12 : 10)	3 (13 : 10 ~ 14 : 40)	4 (14 : 50 ~ 16 : 20)	5 (16 : 30 ~ 18 : 00)
10/17 Tur E803	Class	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ①	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ②	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ③	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ④	
	Subject	Holistic prevent osteoporosis	Development of ethics review system in Thailand	Current situation of dengue virus study	What is diabetes mellitus?	
	Lecturer	タイ・チェンマイ大学医学部准教授 Associate Prof. Somsak Chaovitsaeree	タイ・チェンマイ大学医学部准教授 Associate Prof. Nimit Morakote	大阪大学 微生物病研究所 ウイルス免疫分野 助教 黒須 剛 先生	国立国際医療研究センター 岸本美也子 先生	
10/18 Fri E803	Class		International Fieldwork Practice I・II 国際実践フィールドワーク I・II ①	International Fieldwork Practice I・II 国際実践フィールドワーク I・II ②	世界展開力強化事業セミナー (15:00-18:00)*	
	Subject		WHO and global health (1)	WHO and global health (2)	Thailand-Japan research seminar on global health and infectious diseases	
	Lecturer		Dr. Lapitan (WHO)	Dr. Lapitan (WHO)	亀岡先生	
10/19 Sat E803	Class	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ⑤	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ⑥	International Practice I・II 国際実践特講 I・II ⑦		
	Subject	Supporting family caregivers in caring of persons with spinal cord injury	Sensory stimulation: Cognitive rehabilitation for persons with traumatic brain injury	Human Ecological Fieldwork in Small Communities: Methods and Case Studies		
	Lecturer	タイ・チェンマイ大学看護学部 Dr. Achara Sukonthasarn	タイ・チェンマイ大学看護学部 Dr. Achara Sukonthasarn	北海道大学大学院保健科学研究院 教授 山内太郎 先生		

(2) 分析項目 II 教育成果の状況

事例① 日本学術振興会「大学の世界展開力強化事業」採択に伴う保健学グローバルリーダーの育成の取組

学部生として、実習・演習プログラムに参加した学生のうち、5名が大学院（国際保健学領域）に進学し、派遣先との共同研究に従事している。大学の教員に2名、国際コンサルタント会社就職1名、それぞれ社会で活躍している。国際コンサルタント会社就職の大学院修了学生の詳細は以下の通りである。タイ国チェンマイ大学での3カ月間の研究プログラムに参加した保健学研究科大学院生は、参加前に比して異文化理解、チャレンジ精神、英語力が向上し、アジアでの国際保健分野に貢献する気持ちが一層強くなった。難関である国際人材派遣コンサルタント会社に就職することができ、アジアでの保健に関するプロジェクト事業に取り組み、その能力を發揮し活躍している。